蒲島郁夫名誉教授が旭日大綬章を受章されました

蒲島郁夫名誉教授が、令和 7 年秋の叙勲にて旭日大綬章を受章されました。

蒲島先生は、国内有数の政治学者として活躍されたのち、政治家に転じました。その人生は波乱万丈といえます。

先生は 1947 年に熊本県に生まれ、高校卒業後、農協勤務などを経て、農業研修生として　渡米されました。その地で畜産学を学ばれたのち、政治学専攻に転じてハーバード大学にて 1979 年に Ph.D.を取得されます。日本帰国後は、筑波大学教授等を務められたのち、1997 年に東京大学法学部教授に着任されました。

実証政治学者としての蒲島先生の研究テーマは多岐にわたりますが、特に大学院時代から取り組んできた政治参加論において、大きな足跡を残されました。先生は博士論文を基にした論文を最高水準の国際的学術誌（World Politics）に掲載し、その内容を含む学術書『政治参加』（東京大学出版会）を 1988 年に出版されます。どのような有権者がどのような形で政治に参加し、そのことが政治システム全体にとってどのような意味を持つのか。S.ヴァーバや S.

ハンティントンらの理論的枠組みに沿いつつ、戦後日本人の政治参加の特徴を実証的に明らかにした蒲島先生の研究業績は、国内外で高く評価されています。そのほか、先生は戦後日本の選挙や有権者の投票行動に関する研究を積み重ねられ（『戦後政治の軌跡』岩波書店、2004 年など)、「バッファー・プレイヤー」といった、55 年体制を理解する上で必須の概念を提唱した政治学者としても知られています。

蒲島先生は 2008 年に東京大学を退職されたのち、熊本県知事として政治家人生をスタートします。知事職は 4 期・16 年にわたって務められ、その間に県の財政再建、水俣病問題、川辺川ダム問題、災害対策といった様々な課題の解決に誠心誠意取り組まれました。今回の受章は、主として、知事としての蒲島先生のご尽力に対するものになります。

「逆境の中にこそ夢がある」――蒲島先生はいつも周囲にこのように伝えてこられましたが、まさにご自身の半生をふまえられた金言といえましょう。先生のこの度のご受章を心よりお慶び申し上げますとともに、益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（大学院法学政治学研究科・法学部　境家史郎）